

構想名『知のフロンティアを切り拓きイノベーションとその社会実装を先導する研究大学として開花するための経営改革』  
～IRデータをエビデンスとするシェアド・ガバナンスの実現～

補助金を活用した取組の全体像

**大学経営改革** IRデータを共通言語とする執行部と部局との対話を通じた大学経営（シェアド・ガバナンス）により、本学固有の強み・特色である先端研究・実学研究を推進し、未来社会をデザインする人材を養成する。同時に企業連携を強化し、**経営資源を持続的に獲得・配分する好循環を実現する。**



研究力強化 **取組 ① アンビシャス若手人材の育成による研究力強化**

- ① 将来の研究リーダーたりうる若手人材層の裾野を広げるための「アンビシャス若手人材育成システム」の創設

研究IRデータに基づくマネジメント

デザイン力を備えた大学院生の研究参画

教育改革・人材育成 **取組 ② 未来社会をデザインする人材を養成する大学院改革**

- ② 大学院教育プログラムをコーディネートする「大学院改革ステーション」の設置

教学IRデータに基づくマネジメント

研究成果を教授

エビデンスに基づいた大学経営を実現するガバナンス改革  
経営戦略室の機能強化

●IR戦略プラットフォームのエビデンスデータを活用し、部局との対話を通じ、透明性を担保した大学経営  
＝シェアド・ガバナンスの実現

社会への人材輩出

教育への投資

研究成果・社会実装  
研究・若手人材への収益還元

社会連携

**取組 ③ 北海道大学発のSociety 5.0 実証モデルを中核とした社会連携の促進**

- ③-1 産業構造の変化を先読みしたビジョン共有型企業連携
- ③-2 少子高齢化対応、健康維持のための産学と自治体との共創
- ③-3 北大R&BPを活用したアントレプレナー教育とベンチャー育成

産学連携IRデータに基づくマネジメント

【既に実施済み】産学連携統合データベース構築（研究シーズの発掘）/民間企業とのクロスアポイントメント（社会実装）/共同研究の間接経費比率引き上げ【10%→30%】（財源獲得）

IRデータに基づく経営資源のマネジメントを行い、アンビシャス若手人材の育成による研究力強化、研究成果の社会実装、新たな産学連携の創出、社会からの資金獲得、大学院教育や新たなアンビシャス若手人材育成への投資という好循環を実現する。

構想名『知のフロンティアを切り拓きイノベーションとその社会実装を先導する研究大学として開花するための経営改革』  
～IRデータをエビデンスとするシェアド・ガバナンスの実現～

経営改革を支える戦略基盤

**ガバナンス改革** IR戦略プラットフォームを基盤として、**全ての部局長に対してBIツールによるインタラクティブな可視化データを提供**することにより、IRデータを共通言語とした執行部（経営戦略室）と部局の対話を通じて、エビデンスに基づいた**シェアド・ガバナンス**を実現する。



分かりやすいインターフェースによる直感的な操作

『IRデータ』を共通言語とした執行部と部局の対話



役員・執行部

部局の強み・大学における貢献の戦略抽出を促進



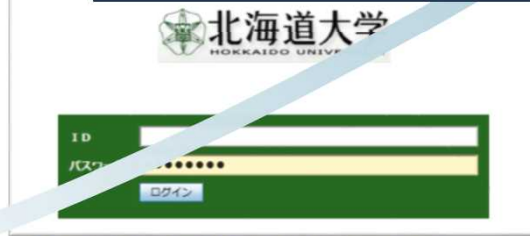
個人別TOP10%論文・外部資金獲得額データ

自部局のデータを様々な角度から把握可能



各部局長

2019年秋から全学運用開始



全役職員の情報基盤であるシングルサインオンシステムからの簡便なアクセス

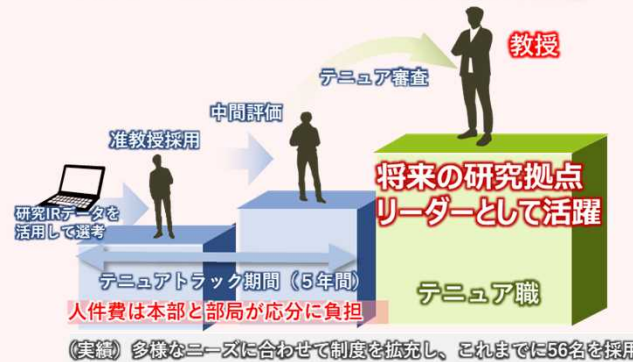
**取組① アンビシャス若手人材の育成による研究力強化**

**① 将来の研究リーダーたりうる若手人材層の裾野を広げるための「アンビシャス若手人材育成システム」の創設**

北海道大学の強み・特色がある研究分野（フロンティア研究・フィールド研究）を強化するため、**30歳台前半の有望な若手研究者をアンビシャステニュアトラックで准教授として採用**し、研究支援策を講じ、本学のフロンティア研究・フィールド研究拠点へ参画させて研鑽を積むことで、**将来の研究拠点リーダーとして育成**する。

フロンティア研究；Top10%論文比率が10%を超える化学、材料、医学・生命科学などの分野  
 フィールド研究；地球規模の課題に立ち向かう環境汚染、感染症、自然災害、食と健康などの分野

「アンビシャステニュアトラック制度」



〈KPI〉

アンビシャステニュアトラック制度適用者数

【令和3年度】

**20**名

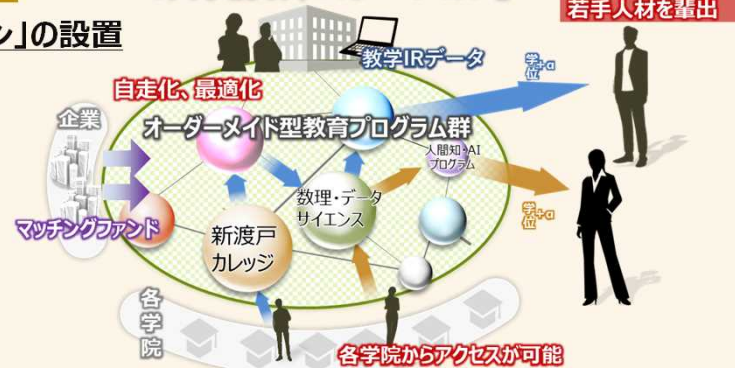
**取組② 未来社会をデザインする人材を養成する大学院改革**

**② 大学院教育プログラムをコーディネートする「大学院改革ステーション」の設置**

全学的視点で大学院教育プログラムをコーディネートする「**大学院改革ステーション**」を設置し、教学IRにより可視化した教育成果や社会ニーズを踏まえた、**多様なオーダーメイド型教育プログラムを整備**し、プログラムの**自走化、教育資源全体の効果的な配分・共有化**を実施する。

また、プログラムの自走化の一環として、企業とのマッチングファンド「**北大アンビシャス博士人材ファンド**」を創設し、大学院生に対する経済的支援を充実させる。

「大学院改革ステーション」



〈KPI〉

外国人留学生受入数（大学院）（通年）

【令和3年度】

**2,600**名  
 (H30実績) 2,478名

**取組③ 北海道大学発のSociety5.0実証モデルを中核とした社会連携の促進**

- ③-1 産業構造の変化を先読みしたビジョン共有型企業連携
- ③-2 少子高齢化対応、健康維持のための産学と自治体との共創
- ③-3 北大R&BP機能を活用したアントレプレナー教育とベンチャー育成

新たな産学連携のためのポテンシャル分析を行う高度専門職、分析結果に基づいて企業との**契約交渉を担当する産学協働マネージャー**を配置するとともに、一次産業を中心とした生産性の向上と雇用の創出を加速する**新たなまちづくり（北海道大学発のSociety 5.0）の実現支援**、教員や学生がベンチャーを起業する際の「**ギャップファンド支給制度**」を導入する。

「北海道大学発のSociety5.0実証モデル」



〈KPI〉

共同研究費獲得額

【令和3年度】

**25**億円  
 (H30実績) 21億円

知的財産権等収入額

【令和3年度】

**1.5**億円  
 (H30実績) 1.0億円

※北大が実証を進めている岩見沢市のモデル